



ながもと けんじ
永本 賢二 さん

1959年 ^{みなまたしうめどちやう} 水俣市梅戸町生まれ
1970年 ^{みなまたびやう にんてい たいじせいみなまたびやう} 水俣病と認定（胎児性水俣病）
1975年 ^{げんくまもとけんりつまつぼせしえんがっこう しんがく りやうせいかつ おく} 現熊本県立松橋支援学校へ進学。寮生活を送る。
1978年 ^{みなまた かわらや しやうしやく} 水俣の瓦屋へ就職
1996年 「ほっとはうす」で^{しごと}仕事を^{はじめ}始める
2002年 ^{みなまたびやうしりやうかん かな} 水俣病資料館「語り部」になる
現在、^{みなまたしみやうじんちやうぎいじやう} 水俣市明神町 在住。

^{わたし} 私は^{せんやうこう} チッソの専用港がある^{うめどちやう} 梅戸町で生まれ育ちました。当時は^{とうじ} 両親と^{あねふたり} 姉2人、そして^{そぼ} 祖母の6人^{にん} 家族でした。家は^{いえ} 梅戸港のすぐ目の前で、^{め まえ} 大きな船や^{おお ふね} チッソのクレーンを^{まいにちえんがわ} 毎日縁側から眺めながら^{なが} 過ごしていました。その^{ふうけい} 風景を今でも^{いま} 鮮明に^{せんめい} 覚えています。私の一番好きな、そして^{おぼ} 心落ち着く^{わたし いちばん す} 風景です。

^{わたし} 私は生まれた^う 時から^{とき} 水俣病の^{みなまたびやう} 症状が^{しょうじやう} あります。小さいころから^{ちい} 体中が^{からだじやう} 痛み、よく^{いた} 泣いてい^な ました。首が^{くび} すわるのも遅く、^{おそ} 歩けるようになったのは^{ある} 5歳の^{さい} 終わりころでした。

6歳になると、^{さい} 水俣第二^{みなまただいにしやうがっこう} 小学校へ^{しんがく} 進学しました。小学校の^{しょうがっこう} ときが^{いちばん} 一番^{からだ} つかう^{からだ} 体が^か 不自由な^{ふじゆう} ことで^{さべつ} いろいろな差別や^う いじめを受け、^{おも} 辛い思いをして^{げんいんきぎやう} きました。原因^{げんいん} 企業である^{きぎやう} チッソ^{たい} に対して「^{からだ} 体を返してほしい」と^{おも} 思った^{わたし} こともあります。でも、私の父は^{ちち} チッソに^{つと} 勤めていたし、^{はは} 母や^{あね} 姉も^{かんれんがいしゃ} 関連会社に^{つと} 勤めていたので、^{こゑ} 声に出して^だ いうことは^{できません} できませんでした。

いま、^{みなまた} 水俣には^{こうじやう} チッソ工場^{はたら} で働く^{おや} 親を持つ^も 子供^{こども} たちがたくさんいます。私は^{わたし} そんな^{こども} 子供たちが^{わね} 胸を^は 張れるよう、^{こうじやう} チッソ工場は^{にど} これから^{こうがい} 二度と^お 公害を^{おも} 起こさないよう^{おも} がんばってほしい^{おも} と思っています。

^{わたし} 私が^{かた} 語り部^べ になったのは、^{こんご} 今後、^{わたし} 私たちの^{おも} ような^{ひがいしゃ} 辛い思いをする^で 被害者^{みなまたびやう} が出ないよう、^{ひきん} 水俣病の^{つた} 悲惨さを^{ひと} 伝えることが^{もくてき} 一つの^{ほか} 目的^{みなまたびやうかんじゃ} ですが、^{ふく} その他に、^{しょう} 水俣病患者^{しゃ} を含めた^{おも} 障がい者^{おも} たちの^{おも} 思い^{おも} を^{つた} 伝え、^{すこ} 少しでも^{しょう} 障がい者^{しゃ} に対する^{たい} 差別・^{さべつ} 偏見^{へんけん} をなくせたら^{おも} と思った^{おも} からです。

^{わたし} 私は、^{みなさん} みなさんにもっと、^{しょう} 障がい者^{しゃ} と^{こうりゆう} 交流^{くるま} してほしい。車^{ひと} イスの人^み を見^{こゑ} かけたら^{こゑ} 声を^{こゑ} かけて、^て 手を^き 差し^の 伸べて^{おも} ほしい。そう^{おも} 思っています。みなさんには、^{きも} やさしい^{おも} 気持ち、そして^{おも} 思いやり^{だいじ} を^{だいじ} 大事^{だいじ} に^{おも} してほしい^{おも} と思っています。